

平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第1年次）（概要）

1 研究開発課題名	<p>信用が資本の人づくり ～ビジネス社会の未来を担い、地域を支える人材を育成する教育プログラムの開発を通じた新しい商業高校モデルの構築～</p>						
2 研究の概要	<p>本研究は、知識基盤社会やグローバル社会に対応できる幅広い知識や柔軟な思考力を、本校がもつ様々な財産やネットワークを有効に活用しながら身に付けさせ、時代の変化や社会のニーズを事業に結び付けながら新しい価値を創り出すことのできる人材として、またビジネスの専門的知識を活用し既成概念にとらわれないチャレンジ精神でこれからの地域産業界の活性化を担う人材として必要な下記の資質・能力を育成するための人材育成プログラムを開発し、新しい商業高校モデルを構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地元の大学、企業、経済団体などとの連携を通じた、高付加価値な商品・サービスの開発を担うベンチャーに必要な資質・能力の育成 2 銀行、証券会社、生命保険・損害保険会社等に関する企業研究及びその職務の研究などを通じた金融を担う資質・能力の育成 3 資格取得への挑戦を通じた、職業会計人、情報処理技術者、ファイナンシャルプランナーなどの職業に就くために必要な資質・能力の育成 						
3 平成30年度実施規模	<p>下記の研究計画のプログラムを実施した学年、学科は、以下の通りである。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 (1)・1 (4)・2 (1)・3 (2)・・・1学年 (280名)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 (2)・1 (3)・・・3学年 (280名)</td> <td>2 (2)・・・海外研修生徒 (10名)</td> </tr> <tr> <td>3 (1)・・・1年情報処理科 (80名)</td> <td>3 (3)・・・全学年 (840名)</td> </tr> </table>	1 (1)・1 (4)・2 (1)・3 (2)・・・1学年 (280名)		1 (2)・1 (3)・・・3学年 (280名)	2 (2)・・・海外研修生徒 (10名)	3 (1)・・・1年情報処理科 (80名)	3 (3)・・・全学年 (840名)
1 (1)・1 (4)・2 (1)・3 (2)・・・1学年 (280名)							
1 (2)・1 (3)・・・3学年 (280名)	2 (2)・・・海外研修生徒 (10名)						
3 (1)・・・1年情報処理科 (80名)	3 (3)・・・全学年 (840名)						
4 研究内容	<p>○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）</p> <p>基本的には、3年間、教育プログラムの項立てを変えずに、他の学年や科目での取り組みに広げ、新しい活動内容を取り入れていく。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="185 1503 357 2051">第1年次</td> <td data-bbox="357 1503 1390 2051"> <p>準備段階（動機付けと研究実践）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成 (2) 言語活動の充実による「課題解決能力」等の育成 (3) 商品開発を通じた「企画・創造能力」の育成 (4) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成 2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成 (2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成 3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成 (2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成 </td> </tr> </table>	第1年次	<p>準備段階（動機付けと研究実践）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成 (2) 言語活動の充実による「課題解決能力」等の育成 (3) 商品開発を通じた「企画・創造能力」の育成 (4) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成 2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成 (2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成 3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成 (2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成 				
第1年次	<p>準備段階（動機付けと研究実践）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成 (2) 言語活動の充実による「課題解決能力」等の育成 (3) 商品開発を通じた「企画・創造能力」の育成 (4) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成 2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成 (2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成 3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成 (2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成 						

	(3) 金融教育を通じた「金融リテラシー能力」の育成
第2年次	<p>人材育成プログラムの開発（研究実践）</p> <p>1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力</p> <p>(1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成</p> <p>(2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成</p> <p>2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力</p> <p>(1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成</p> <p>(2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成</p> <p>3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力</p> <p>(1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成</p> <p>(2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成</p> <p>(3) 金融教育を通じた「金融リテラシー能力」の育成</p>
第3年次	<p>新しい商業高校モデルの構築（研究実践と検証）</p> <p>1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力</p> <p>(1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成</p> <p>(2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成</p> <p>2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力</p> <p>(1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成</p> <p>(2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成</p> <p>3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力</p> <p>(1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成</p> <p>(2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成</p> <p>(3) 金融教育を通じた「金融リテラシー能力」の育成</p>

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

特記事項無し

○平成30年度の教育課程の内容（平成30年度教育課程表を含めること）

本校では、商業科5クラス、情報処理科2クラスの合計7クラスで編成されている。商業科5クラスは入学時より進路を意識したコースや系列を設けている。1学年ではビジネス総合コース4クラスとビジネス進学コース1クラスで編成され、2学年ではビジネス総合コースの4クラスが就職を目指すキャリア系列3クラスと進学を目指すアドバンス系列1クラスで編成されている。（別紙「平成30年度教育課程表」参照）

○具体的な研究事項・活動内容

1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力

(1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成

①大学の講演（10月）

講師 作新学院大学経営学部経営学科長 前橋 明朗 様

演題「学問としての起業」

(内容) 言葉の理解の確認、良い起業悪い起業の具体例、今までと今後の課題

②起業家による講演（12月）

講師 (株) 栃木ブラックス取締役会長 関 雅樹 様 ((株) 壮関 創業者)

演題「ゼロからの創造」～無限の可能性を信じて～

(内容) これまでの経験や信念、失敗したこと成功したこと など

③初歩的なビジネスプランの作成（1月、2月）

上記の講演会を参考にビジネスプランを冬季休業中に作成。

(2) 言語活動の充実による「課題解決能力」等の育成

①「課題研究」の授業において、商業の各分野に関する課題を生徒が自ら設定し、主体的かつ協働的にその課題を探求し、実践的・体験的な学習活動を行う。

②出前授業（9月）

講師 宇都宮市LRT共同推進室

（内容）LRTによる影響と経済効果等について

③大学訪問（12月）

言語活動の充実による「課題解決能力」等の育成として、高大連携を結ぶ3大学（作新学院大学、帝京大学、国際医療福祉大学）を訪問し、講義等の参加を通して柔軟な思考力を身に付けるための体験活動を行った。

④校内課題研究発表会（12月）

各クラス代表1グループを選出し、本校体育館にて、全校生徒・教員・学校評議員・保護者に向けて1年間の研究成果の発表をした。

(3) 商品開発を通じた「企画・創造能力」の育成

①新商品研究（通年）

各グループが栃木の特産品を調べたり、既存の商品なども調べながら新商品案を考えた。アンケート調査や聞き込み調査も行い、コンセプトの設定やターゲットの絞り込みなどを考え完成度を高めた。

②クラス内発表会（12月）

各グループが研究内容を10分程度にまとめ、パワーポイントを使用してクラス内でプレゼンテーション発表を行った。

(4) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成

①小中高と企業と地域との連携「高校生未来の職業人育成事業」（夏休み中の3日間）

協力企業 ヤマゼンコミュニケーションズ（株） 参加者 本校生徒、近隣の小中学生

②講演会

講師 ヤマゼンコミュニケーションズ（株）取締役営業部長 山本純子 様

演題「チームビルディングとリーダーの役割」

2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力

(1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成

①外国語（英語）に関する意識調査（8月～9月）

②クラス内スピーチ発表会

ア. “My Favorite Memory of the summer holiday” というテーマでスピーチを行う。（9月）

イ. “Speech about school festival” というテーマでスピーチを行う。（10月）

③クラス内プレゼンテーション発表（10月後半～12月前半）

“Introducing Japan to Foreigners” というテーマで、パワーポイントを使用してグループ毎にプレゼンテーションを行う。

(2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成

①台湾研修打合せおよび学習会（3回実施）

②宇都宮大学台湾留学生との交流会（2回実施）

③台湾研修旅行 12月17日（月）～12月21日（金）（4泊5日）

④台湾研修報告会

全校生徒を対象にパワーポイントを使用してプレゼンテーションを行った。

3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力

(1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成

①教科における学習

情報処理科の1年生は情報処理(2単位)とプログラミング(5単位)を履修し、オブジェクト指向によるクラス設計などJavaの特性を活かしたプログラミングを意識させ学習させた。

②情報処理技術者試験対策講座(年3回実施)

本校同窓会から支援をいただき、専門学校で受験対策の学習ができる環境を提供した。

③企業の「情報システム担当者」による講話(12月)

企業での実際の業務を知り、情報処理の学習に興味・関心を持たせるために、情報処理科の1年生を主な対象とした講話を実施した。

講師 藤井産業(株) 情報システム部営業技術課
専門課長 荒井健二 様(情報処理安全確保支援士)

演題「企業における情報システム担当者」

(内容) 企業での実際の業務について

④プログラム開発(グループ研究)(2月)(10時間程度)

情報分析プログラムを作成させるグループワークを実施。協働することで「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れるとともに、思考力の育成と知識の定着を図る。

(2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成

①連結会計講座(9月)

東京CPA会計学院山内樹先生を講師に迎え、連結会計のしくみや連結財務諸表の作成を通して、理論的思考を養う講座を開催した。

②税効果会計講座(10月 2回)

東京IT会計法律専門学校池田正明先生・高橋純一先生を講師に迎え、税効果会計のしくみや短期利益計画の考え方を養う講座を開催した。

③講演(12月)

講師 日本商業教育振興会代表理事・高崎商科大学経理研究所主任研究員
中央大学経理研究所専任講師・朝日大学会計研究部監督
公認会計士 小島 一富士 様

演題「社会における簿記会計の重要性」

(内容) 簿記会計の重要性、簿記の素晴らしさ、取替不能な人財 など

③講演(2月実施)

講師 金融庁公認会計士・監査審査会 会長 廣本 敏郎 様

演題「目指せ、公認会計士!～会計なくして経済なし～」

(内容) 公認会計士の使命・重要性について、複式簿記の歴史、公認会計士の世界 など

(3) 金融教育を通じた「金融リテラシー能力」の育成

①講演(9月)

講師 (株) 栃木銀行 金融サービス部 係長 上野 尚美 様

演題「ファイナンシャル・プランナーの知識の習得」

(内容) 銀行の仕事について、なぜ「FP」の知識が必要なのか など

②講演(10月)

講師 (株) 栃木銀行 法人営業部 地域創成室 係長 島田 勉 様

演題「金融機関の業務の理解」

(内容) 銀行の役割について、銀行の種類について、銀行の商品や取組について など

③売買に関する計算の学習(金利や利息についての計算) 1年生「ビジネス基礎」

④FP講座(10月～1月 12回実施)

講師 ファイナンシャル・プランナー

参加生徒 3年生 3級FP技能検定受験希望者 27名

⑤ミニインターンシップ（金融の実践的な能力を育成する職場体験 12月）

事業所 東京海上日動火災保険（株）、大和証券（株）、明治安田生命保険（株）
（株）栃木銀行、（株）日本政策金融公庫

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法（普及状況については、可能な範囲で、他校・他地域への波及効果などを記載すること）

研究成果については、県内の商業科教員が一堂に会する栃木県商業教育研究大会で発表し、栃木県全体の商業関係の専門高校で共有化を図る。また、生徒自身がPTA総会や同窓会総会、校内課題研究発表大会等で発表するとともに、中学生が来校する一日体験学習で発表することで本校の取組を知ってもらう機会としたい。また現在、本校のホームページにSPHの項目を設け、SPH事業関連の行事等を実施するごとに記載している。地域をはじめ全国に広く本校の取組を紹介していく。

○実施による効果とその評価（数値や客観的なデータ等も用いながら記載すること）

（1）起業家精神の育成に関しては、2回の講演会を通して1年生の約63%が起業に興味関心を持つようになった。また、ビジネスプランを作成したことで、「地元ではどのような課題があるのか」「どのような活動をすれば、もっと活性化するのか」などの探究心を持たせたことは大きな成果であった。

（2）課題解決能力の育成に関しては、大学訪問後の生徒のアンケート結果によると、大半が参加して良かったとの意見であり、高校の授業では経験できない専門的な講義を受講したことで、生徒たちにとって新鮮な学びであった。校内課題研究発表会では外部の方からの評価の中で、今後、機械化されつつある現場では、発想の柔軟性、チームでのコミュニケーション能力、相手との相互理解などが重要であるが、そのための有意義な時間を過ごせたとの意見をいただいた。

（3）企画・創造力の育成では、生徒アンケートの結果、商品開発を通して、地元のことを深く知る機会になった。また、「問題を解決するときは一人の力では限界があるため、周りの人と協力したい」「多くのことにチャレンジして、成長していきたい」という意見も多くあり、来年度のさらなる進化に期待がもてた。

（4）リーダーシップの育成では、本校生が、職場体験や講演で得た商業の学びを生かし、ビジネスマナーをはじめとする商業の知識・技術を小中学生に還元する活動を行うことで、本校生自身の知識と技術の定着が図れた。またアンケートの結果、高校生が率先して小中学生に話しかけてアドバイス等を行い、協力企業と小中学生との橋渡しをすることによって、リーダーシップを発揮することができた。

（5）英語によるコミュニケーション能力の育成では、「英語で話すこと・聞くこと・自分の体験や考えを相手に伝えること」に関して、自己評価で「得意・やや得意」と回答した割合が僅かながら増加した。苦労しながらも意欲的に取組み、相手に伝わるように発表や英文構成の仕方に工夫をこらしており、英語学習に対するモチベーションを高めることができた。

（6）グローバルな視野の育成では、まず自国の歴史や文化について調べることで、日本や自分自身のことを再認識することができた。また、台湾の歴史や文化・経済について事前に調べたことで、相手の国のことを深く知ることができた。将来の進路についても海外で働くことや外国の方と仕事をする等のイメージをもつことができ、将来の進路を考えるきっかけとなった。

（7）情報処理・活用能力の育成では、講話後のアンケート調査の結果、情報処理専門職についての理解が深まり、約83%がその職業に対して興味を持った。1年生という早い段階から職業を意識することで、情報処理に関する専門的な学習にもより意欲的に取組むことができた。

（8）会計情報の分析・活用能力の育成では、各プログラムにおいて、事前・事後アンケートを実

施した。その結果から回を重ねるごとに学習意欲等が高くなり、簿記・会計について高校で深く学び、将来その知識を活かした職業に就きたいと考える生徒が約90%になった。

- (9) 金融リテラシー能力の育成では、講演を通してFPの知識や必要性を将来のライフイベントの例を踏まえて考えることにより、お金に対する正しい知識や金融商品の種類、内容についての理解を深めることができた。また、金融関係の職場体験を通して、金融業の業務や役割について95%の生徒が理解したと回答した。生徒のコメント欄には、「金融商品を開発したい」「銀行業務を体験したい」等、前向きな意見が多く、生徒の主体的な学びとなった。

○実施上の問題点と今後の課題

- (1) 起業家精神の育成については、来年度、外部に発信できる活動を実践していきたい。ビジネスプランを1人で考案、そして実行していくには限界があるため、多くの人の意見や考えを聞く機会を設けることで起業家精神の資質・能力の育成を図っていく。
- (2) 課題解決を図りながら、新商品の開発を通して企画力を育成するためには、校内での活動だけでは限界がある。そこから発展させるには、企業訪問や現地調査等の校外での活動が必要になる。また、研究成果を企業や地域社会に発信して行くことも大切である。開発した商品を企業に評価していただき、生徒のアイデアが地域社会の発展に貢献できるようにしていきたい。
- (3) 商品を考案する上で、原価計算や販売計画そして起業する必要性等を指導する必要がある。また、商品開発のみではなく、観光商品や体験型商品などの形態も視野に入れることも重要である。2年目は、商品販売にも目を向けた指導を行うなどマーケティングの学習を生かした活動を実施していきたい。
- (4) 英語によるコミュニケーション能力の育成では、表現活動（特に Speaking が絡む活動）に関して苦手意識を持っている生徒が半数近く存在している点に課題がある。いかに心的ハードルを下げられるか、意欲的に活動に参加できるかを検討し、実践内容・プロセスを選定していきたい。
- (5) グローバルな視野の育成では、今回、異文化交流を中心で行ったが、今後は台湾の学校と商品開発や貿易等を通じて商業的な交流をしていくことを念頭に置いたプログラムを立ていきたい。2年目は他のプログラムとも相互に協力し、事前事後研修の充実や今年度実施した内容を精査しPDCAサイクルを用いて改善に努めていきたい。
- (6) 情報処理・活用能力の育成では、次年度以降、データベース設計やデータ自体の意味について考えさせ、最終的にはPOSシステムなどの実務を意識した総合的なプログラム開発を行うことを目標として教育プログラムを展開したい。各取組が単独のものとして実施されるのではなく、段階的かつ継続性のある指導を行うことで、生徒の資質能力の向上に努めたい。
- (7) 会計情報の分析・活用能力の育成では、来年度も外部講師による上位級の講座を実施し、会計情報の理解や数値の判断等の理論的な思考を養うとともに、講演会については、本校OBに講演を依頼する予定である。高校時に税理士試験科目合格や、大学在籍中に公認会計士試験に合格、公認会計士として活躍しているOB等をお招きし、在籍時にどのように学習したか、進学先でどのような取組をし、夢を実現したかなど、講演していただく予定である。
- (8) 金融リテラシー能力の育成では、金融関係事業での職場体験の実施時期が年末ということもあり、1・2年生だけの実施になってしまった。今後は、商工会議所や金融関連企業と連携を密にし、1学期中の実施を検討したい。FPに関しては、お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて社会について深く考え、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的かつ協働的に取り組む態度を養っていきたい。そのために、講演を2年生に実施し、3年生の「課題研究」の授業で金融商品の提案や3級FP技能検定の知識を身に付けさせたい。